

## (1) 取り組みの総括

計画通りに研究授業を行った。本年度も算数科で ICT を取り入れ、主にデジタル教科書を使い、間接指導でアイパッドなどを活用し、子どもたちの興味・関心を引き出し、理解を深める授業づくりを進めることができた。授業のまとめでは、授業評価表に記入させ、授業分析に活用することができた。

今年度は、スクールヘルスリーダーが1年間で20日程度の勤務となり、子どもたちの心と身体のケアや、「連絡カード」で点検項目（睡眠、テレビ、読書、勉強、朝ご飯、手伝い）の欄を設け、毎日の生活を子ども自身も点検することを通して、基本的な生活習慣の確立を目指してきた。「連絡カード」は、子どもたちが生活を振り返るきっかけになったと思う。

また、子どもたちの様子については、毎週金曜日の長休みに、気づいたことを出し合ってきた。その中で解決策を確認し合うことができた。

参観日の授業後には学級懇談の時間を設定し、学校や家庭での子どもの様子を話し合っただけでなく、また、学級(学校)通信を発行し、学校での子どもたちの様子や取り組みについて保護者に知らせ、子どもを中心に保護者との共通理解を図るように努めた。必要に応じて、電話連絡や家庭訪問を行うとともに、保護者からの要望や相談にも対応することができた。

校内研修日を職員会と合わせて毎月の水曜日に設け、ほぼ年間計画に沿って研修を進めることができた。資料の検討などがスムーズにできるように早めに作成・配布し、チェックをしてもらおうようにしてきた。今年度は、「中山間地域小規模・複式教育研究指定事業」の研究協力校となり、研修会での資料から複式授業のスタンダード（学習進行カード、一人学び・共学び）を取り入れて行い、授業の流れが見て確認でき、間接指導の時でもスムーズに行うことができた。児童の学力向上に向けて、授業改善を授業診断シートで検証した。研究授業には講師を招き、授業後の討議は、ワークショップ型で行ってきた。児童、授業者、参観者は授業評価表に記入し、今後の反省材料とすることができた。

研究主題に関わっては、昨年度残された課題と子どもたちの実態をふまえ、今年度も引き続き「思いやりの心を持ち、自分の考えを進んで表現できる児童の育成」を研究主題として設定した。思いやりの心を育てるために、学級会活動や全校活動を通して、認め合い支え合える集団づくりを目指して取り組んできた。そして、地域の中で子どもたちを育てることも重視し、地域を題材にした総合的な学習（海の環境学習・バラ抜き節の踊り）や音楽の発表（創作太鼓「激流」）、基礎学力向上を目指したくぼっ子活動などの取り組みを進めてきた。

このような研究主題に基づいた様々な取り組みにより、授業や読み聞かせ朝礼・ブックトーク・集会活動などの場で、自分の思いを分かるように発表しようとする態度や話す力の向上が見られ、読書量や漢字力向上などにも一定の成果を確認することはできた。しかし、十分に主題に迫るには、話す力、自ら学ぶ力をつける取り組みが必要である。